

はじめに

◎第19期283回隠岐海区漁業調整委員会を開催しましたので、概要をお知らせします。

出席委員：小中、葛西、安部、吉田、森、影原委員

欠席委員：扇谷、仁田、田中、濱田委員

開催日時：平成22年6月15日（火） 14：10～15：30

開催場所：隠岐郡隠岐の島町西町 JFしまね西郷支所会議室

議題

1. 島根県の海生物資源の保存及び管理に関する計画の変更について（諮問）

さば類及びずわいがにの平成22年漁期（平成22年7月から平成23年6月）のTAC（漁獲可能量）が国から示されました。併せて島根県の計画も変更するために、知事から隠岐海区漁業調整委員会へ諮問がされ、委員会において審議が行われました。委員からは、さば類の数量の減少と保留枠の追加配分等についての質問や確認がされました。

第一種特定海洋生物資源の種類	平成21年1月から12月までの知事管理量 (ずわいがに、さば類については、7月から翌年6月まで)	平成22年1月から12月までの知事管理量 (ずわいがに、さば類については、7月から翌年6月まで)
まいわし	若干	若干
さば類（まさば及びごまさば）	21,000トン	13,000トン
まあじ	40,000トン	38,000トン
するめいか	若干	若干
ずわいがに	若干	若干

《審議の結果》この諮問について、異議なしの答申をすることになりました。

2. 島根県連合海区委員会委員の選出について（協議）

島根県連合海区委員会は、島根海区、隠岐海区よりそれぞれ5名ずつ計10名の委員によって構成されていますが、平成21年12月に隠岐海区選出の池田委員が辞職されたため、欠員が生じておりました。そのため後任の委員を選出するための協議が行われました。

【協議の結果】吉田委員が新たな連合海区委員に選出されました。

3. 隠岐管内における水産業の動向について（報告）

隠岐管内における水産業の動向について、就業者数の変化や登録漁船隻数、漁業生産状況等に関する報告が水産局からされました。

①就業者数の変化

1,300人（H15）→1,238人（H20）

隠岐地域は島根県全体の減少率（△13.1%）より小さい減少率（△4.8%）で、減少幅は県内他地域を大きく下回っています。また隠岐地域の特徴として自営業者が155人（△17.1%）減少したのに比べ、雇用従事者は93人（23.7%）増加という点が挙げられました。自営漁業者の減少は、主に高齢化等によ

るものであり、雇用従事者の増加は、まき網漁業や定置網漁業、企業型のイワガキ養殖等の漁業経営体による雇用増加が考えられるといった報告がされました。

②登録漁船数（H22）

2,275隻（全県の約31.7%）

③漁業生産状況（H22）

生産量：約89,000トン

（前年比121%）

生産額：約75億円

（前年比84%）

平成21年の生産量は約8万9千トン

（前年比121%）、平成21年の生産額

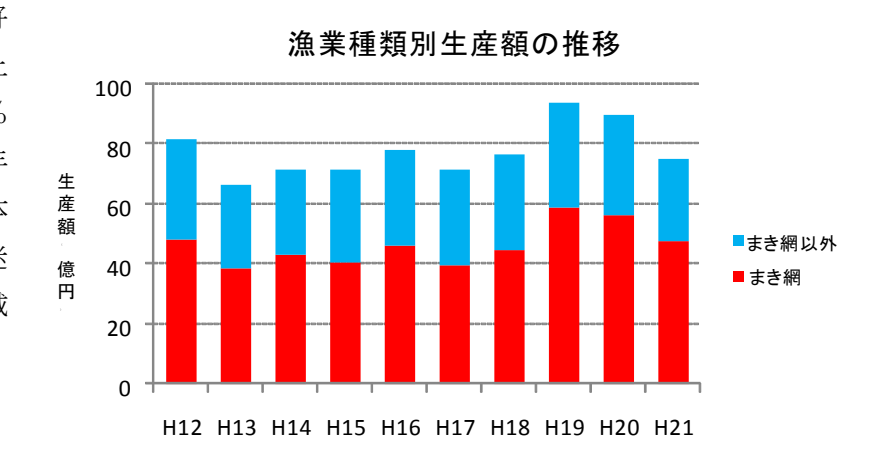
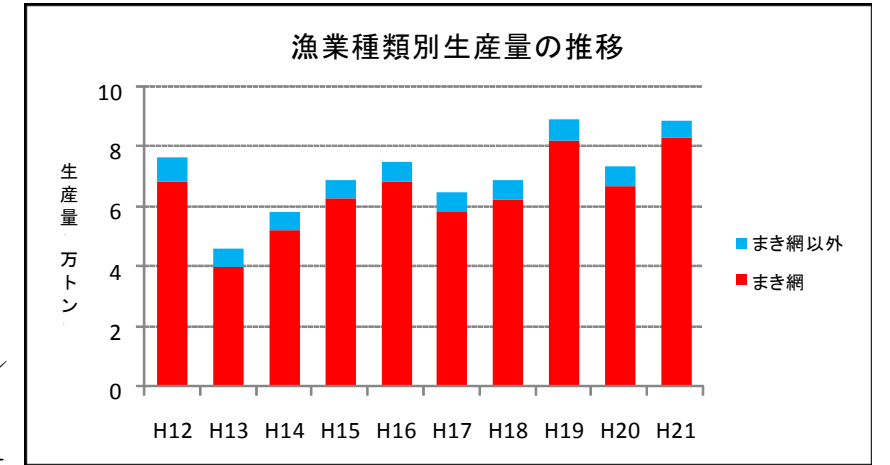
は約75億円（前年比84%）でした。

生産量の94%を占めるまき網漁業の好漁が影響し、生産量については前年を上回りました。

生産額については、64%を占めるまき網漁業が約48億円（前年

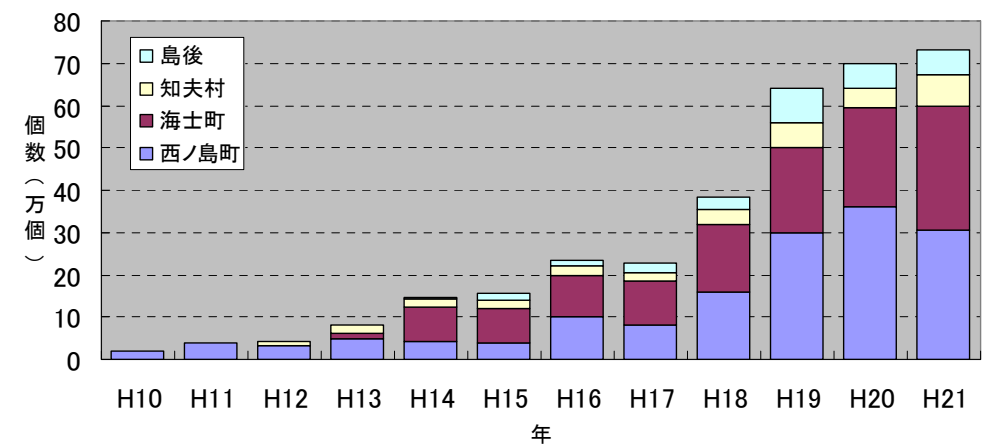
比85%）で、まき網漁業の減少が全体の減少に大きく影響しました。景気低迷の影響による全般的な魚価安が生産額減少に

影響したという報告もされました。



また、委員からは特にイワガキについての意見が多数あり、関心の高さが伺えました。今後は売る努力や販路開発という課題への対応が必要という意見や、イワガキの品質管理のためには、新規就業者への養殖に対する意識徹底、技術指導が欠かせないといった意見がありました。イワガキの成長が悪くなる過密飼育については、それぞれの地域での生産可能量の把握や指導が対策として必要ではないかといった意見も出されました。

いわがき出荷個数の推移



おわりに

◎すっかり秋めいてまいりました。今年の暑い夏が嘘だったかのように急激に気温も下がってまいりました。季節の変わり目ですので、風邪などの病気にはくれぐれも気をつけてご自愛くださいませ。

連絡先

隠岐支庁水産局内
隠岐海区漁業調整委員会事務局
Tel：08512-2-9669
Fax：08512-2-9674